1953年6月16日　第三種郵便物認可

2022年12月19日（月）　3127号　隔週月曜日発行

民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp　●Eメール minsin@dylj.or.jp

見どころ

第46回全国大会での高校生の発言　（6、7面）
日本共産党・小池晃書記局長のあいさつ（10、11面）
新コーナー　若者憲法コラム　（11面）

第46回全国大会

26年ぶり大会目標達成！

さらに強く大きな民青同盟へ

11月25～27日、民青同盟は第46回全国大会を開催しました。今大会では26年ぶりに拡大目標を達成すると同時に、討論で方針を実践する中での成長、さらに民青を大きくしたい思いや決意が語られ、歴史的な大会となりました。

（文中は一部仮名、今井千尋記者）

民青同盟は、全国の同盟組織のがんばりによって第45回大会で掲げた1500人の拡大目標を超過達成し、1715名の仲間を迎えました。これは2004年以来の拡大到達です。

大会中も全国各地で奮闘し、3日間で50名以上の仲間を増やしました。会場では「加盟した」と速報が入るたびに拍手が起き、盛り上がりました。目標を達成した都道府県は、青森、岩手、埼玉、新潟、愛知、大阪、広島に加えて、大会中に福岡が達成しました。

「加盟は素晴らしい判断だった」

大会では、目標達成の中で迎えた新しい同盟員が加盟して良かった思いを語りました。山梨のRAさん（大学生）は民青を紹介されたときのことをふり返って「私はすぐに加盟したい！　と、今でも思います、あの半年前の即断は私の19年間の中でもトップレベルに素晴らしい判断でした」と発言。また、RAさんは『科学的社会主義Q&A』ブックレットを「運命的な民青での出会い」と紹介しました。連関の中で物事を見る弁証法を学んだことによって、大学での学びがより深いものになったとRAさん。ブックレットは自分に「新しい世の中の見方と思考法を与え、安易（あんい）な自己責任論から解放」し、「これからの学習の羅針盤となってくれている」と確信しています。

昨年の衆院選をきっかけに加盟した西日本の吉村ゆうさん（高校生）は、「私はトランスジェンダーです」と話します。高校に多目的トイレを増設してほしいと思っていた吉村さんは、今年8月に日本共産党の県議と一緒に県庁の教育関係部署に申し入れに行きました。その後、通っている高校で多目的トイレの増設が決まり、工事が始まりました。吉村さんは「本当は女性用トイレを利用できたらいい」という葛藤（かっとう）も抱えつつ、「自分の要求は声を上げれば学校や行政を動かす力になる」と実感を込めて話しました。

◀大会への報告を行う西川龍平中央委員長

民青大きくすることが社会を変える力に

なぜ民青を大きくするのか――。社会を変える力になるという意義が青年に響いています。東京・新宿地区委員長の堀江真郷さんは、加盟を粘り強くうったえる実践として「賃金を上げてほしい」など、相手の前向きな思いに光を当てることを大事にしてきました。その実践の中で青年から「なぜそんなにその（加盟）用紙に書いてもらうことにこだわるのか」と質問された堀江さん。立ち会った同盟員が「この用紙に記入することが賃上げなど社会を変える力になると真剣に考えているからこんなにこだわっているんです」と伝えると、その青年が同盟員の熱意に動かされ加盟した経験を紹介しました。

福岡県同盟は、決議案実践の努力で目標を超過達成し16年間で最も高い63名の到達を築きました。県委員長の山野遼大さんは、同盟員を増やすことを「深刻な矛盾（むじゅん）を生み出している支配階級に対して、連帯の力をもってたたかう自覚的な多数者をつくるための階級闘争」と発言。山野さんは「強大な民青同盟をつくって多数者を組織することができるかどうかに、青年と日本社会の行く末がかかっています。だからこそ、民青同盟は目の前の青年が民青に加盟することに本気でこだわるのです」と強大な民青をつくる意義を語りました。

（2面へつづく）

▲討議を聞く大会参加者

発行所
日本民主青年同盟中央委員会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-20-2
電話(03)5772-5701 FAX(03)-5772-5702
日本民主青年同盟中央機関紙
定価（税込み）月680円 〒130円 1部340円
郵便振替00180-4-106690